

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 税金の大切さ

本宮市立白沢中学校

2年 石川 百合香

「教科書、配ります。」

新学年になり新しい教科書が先生の元から配られる。それを受け取った私は、あらかじめ準備していたペンで、汚れ一つない真新しい教科書に自分の名前を書き入れる。その動作を何回か繰り返す。まるで、その動作が当然とでもいうかのように。名前を書く度に目に入る「・・・税金によって無償で支給されて・・・」という文。以前の私であれば、その言葉を別に気にも留めずただ「大切にしよう。」と思うだけだった。しかし、今の私はそうは思わない。

ある日の英語の授業、学習内容によるもので「外国の学校」について少し勉強した。主な学校生活、義務教育の制度などの面からの日本の学校との違いなどを少し知った。日本にはない、取り組みがたくさんあったり、名称の違いがあったりしてとても驚いた。それから私は外国の学校について興味を持ち、調べることにした。

私は本を使って外国の学校について調べた。すると、驚くような事ばかりだった。服装は制服か私服か、昼食は、給食のところはあまりなく、お弁当を持ってくるか、一度家に戻ってから食べてくるという事などが分かった。一番驚いた事は、「教科書」だ。日本の小中学校では、税金によって無償で一人一人に教科書が配られる。しかし、外国の学校では、教科書が無償で一人一人に支給されるのはほぼない、という事がわかった。ほとんど、教科書は使い回して、教科書に直接書き込むことはできないという事を知った。直接の書き込みがで

きないなんて、私からしたら信じられないような話でとても驚いた。また、もらう場合は、自分で購入するしかないという事を知った。家へ持ち帰る、という事はほぼなく、持ち帰る時は許可をとってから可能になるという事も知った。

今まで、教科書は無償でもらうのが普通と思っていた私は今回、現実を知って世界を見る目が変わったような気がした。そして改めて税金のありがたさを実感した。今、私が勉強できているのは、税金のおかげなのだと思いきった。

今、子供の私にできる事は何だろうか。それは、税金に感謝しながら勉強することではないかと私は思う。また、子供の私が唯一納めている消費税を、悪く思わないことだと思ふ。大人と比べたら、出来る事は少ないがその数少ない小さいことでも責任を持って続けていきたい。そして将来、私が大人になった時に今までの感謝を忘れずにしっかり納税のできる人になりたいと思ふ。